

令和5年度 港区政策評価シート

1 政策名・所管部門

政策No	19	政策名	高齢者のいきいきと充実した地域での生活を支援する
所管部	保健福祉支援部		関係部

2 政策のめざす方向性

高齢者が地域の中で心豊かにいきがいを持って元気に活躍できる活動の場を確保し、社会参加を促進します。介護予防を積極的に推進するため、住民主体の通いの場への支援充実や、より効果的な事業を推進する体制を構築します。認知症に対する理解を促進させるとともに、認知症の人や家族が相談できる体制を充実します。高齢者が要介護状態になった場合の在宅生活を支える様々なサービスを充実させるとともに、介護保険施設等の整備・充実を進めます。高齢者に対する見守りや相談事業などのセーフティネットワークの構築を推進し、高齢者を地域で支え合う社会をめざします。

SDGsとの関係					
----------	---	---	---	---	---

3 成果指標【政策について満足している区民の割合】

指標の推移		目標値		達成度 ※	※評価方法 A：中間目標値に到達しており、計画目標を達成できる可能性がある。 B：中間目標値に到達していないが、計画目標を達成できる可能性がある。 C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和元年度）も下回っているが、計画目標を達成できる可能性がある。 D：中間目標値に到達しているが、計画目標を達成できる可能性がない。 E：中間目標値を下回っており、計画目標を達成できる可能性がない。
現状値	実績	中間目標値	計画目標値		
令和元年度	令和4年度	令和4年度	令和8年度末		
27.5%	35.6%	27.7%	28.0%	A	

これまでの取組と成果
コロナ禍による高齢者の外出控えが続く中、情報発信等を工夫し、いきいきプラザ等の利用をはじめとした介護予防への参加促進や活動団体数の増加に取り組み、高齢者の社会参加や多様な介護予防の推進につながりました。ふれあい相談員によるひとり暮らし高齢者等への訪問を工夫するなど、見守りや必要な支援につなげました。

課題と今後の方向性
※未達成の場合は原因分析を含む
認知症サポーターの養成や育成及び活動の場の充実、認知症サポート店の更なる拡大が課題であり、効果的な事業実施や分かりやすい周知に取り組みます。
高齢者人口の増加を見据え、現状の見守り体制を維持できるよう、ふれあい相談員の増員や同相談活動の充実など、高齢者等を地域で支えあう環境整備を進めます。

4 施策の取組状況【施策評価結果】（詳細は別紙「施策評価シート」）

No	施策名	成果指標	施策評価
①	心豊かで健康な生活への支援	いきいきプラザの利用者数	A
		介護予防に資する地域の活動団体数	
②	認知症と共生する地域づくり	認知症サポーター養成者数	A
		認知症サポート店認定数	
③	日々の生活を支える介護・福祉サービスの充実	在宅支援サービス（介護保険サービスを除く）の利用者数	A
④	誰もが安心して暮らせる地域づくり	ふれあい相談員による訪問及び電話相談の対応世帯数	A
		生活支援コーディネーターが情報収集した地域活動団体等の数	
⑤			
⑥			

5 予算額・決算額・執行率（単位：千円）			
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
予算額	10,534,175	11,411,573	13,517,291
流用・補正	-353,524	523,974	-
決算額	9,795,630	11,398,889	-
執行率	96.22%	95.41%	-

6 政策を取り巻く社会経済情勢等

<p>計画期間中の社会経済状況等の変化</p> <p>・社会経済状況、人口動向、財政状況、国や東京都等の動向など</p>	<p>コロナ禍により、人が集まることや施設利用に当たっての制限が生じ、在宅におけるサービス需要への対応として、デジタルデバイドの解消が課題となっています。また、令和元年6月に国が取りまとめた認知症施策推進大綱に基づく自治体による施策の推進も求められています。</p>
<p>区民ニーズ等</p> <p>・区民意識調査 ・区民から寄せられた意見など</p>	<p>くらしと健康の調査では、いきいきプラザを利用しない人は年齢の低いほど高い傾向にあり、介護予防事業への参加も含め、一層の利用促進が必要であることが分かりました。</p> <p>ひとり暮らし高齢者等の増加による見守りの充実も重要です。</p>

7 所管課による評価【一次評価】

<p>政策の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の社会参加の促進について、介護予防事業の多様な手法による発信に取り組むなど、活動団体数の増を実現できています。 ・多様化する区民ニーズに対応した在宅サービスの充実を図ることで、区民満足度の向上につながりました。 ・認知症サポーターの養成者数やふれあい相談員の訪問数などが目標値に到達するなど、認知症の理解促進や高齢者を地域で支え合う社会づくりが進展しています。
<p>達成状況の要因</p> <p>・施策の有効性が高かった点 ・施策の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施策「心豊かで健康な生活への支援」の介護予防の活動団体数は、既存グループの見学会の再開等により、新規登録の後押しとなりました。 ・施策「認知症と共生する地域づくり」のサポート店認定数について、事業の浸透度に課題があり、想定した成果が得られていません。 ・施策「日々の生活を支える介護・福祉サービスの充実」では、新たに補聴器購入費助成事業を実施し、認知症の危険因子の一つといわれる難聴の早期発見を後押しするなど、十分な成果を確認できています。
<p>課題と今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきプラザ等の利用控えへの対応やICTを活用した介護予防事業の進展等に積極的に取り組みます。 ・認知症サポート店の増を図るため、効果的な啓発に取り組み、地域で支え合う体制づくりを進めます。 ・高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう「高齢者民間賃貸住宅入居事業」では、要件の緩和など制度の改善に取り組み、支援の充実を図ります。




8 港区行政評価委員会による評価【二次評価】

<p>評価※</p>	<p>A：政策目的を十分に達成できる。</p>
<p>政策の達成度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター数や認知症サポート店の認定数が増加していることは評価できます。 ・65歳以上の人口に占める要介護者の割合など、介護予防事業の効果測定は検討課題です。
<p>今後の政策の方向性</p> <p>・重点的に取り組むべき施策など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーターは在勤者の割合が多くなっているため、在住者に向けた啓発を積極的に行う必要があります。 ・在宅高齢者への支援としては、福祉政策と住宅政策の双方の視点から、賃貸住宅への入居支援のみならず、分譲マンションの建て替え時の支援なども視野に入れて検討する必要があります。

※評価の目安

政策評価	施策評価 (最も低い施策の評価で判断)	政策の成果指標の達成度
A：政策目的を十分に達成できる。		A
B：政策目的をおおむね達成できる。		C以上
C：政策目的を達成するために改善が必要である。		上記以外

施策評価シート

政策No	19	政策名	高齢者のいきいきと充実した地域での生活を支援する		
施策No	1	施策名	心豊かで健康な生活への支援		
目標・期待する成果	高齢者が自らも担い手となっていきいきと活躍できる活動の場の充実・支援に取り組むことで、地域における社会参加を促進します。高齢者が健康で自立した生活が続けられるよう、身近な場所で多様なニーズを踏まえた介護予防の取組を推進します。				
SDGsのゴールとの関係	  				
施策担当課	高齢者支援課		関係課	麻布地区総合支所管理課 高輪地区総合支所管理課	
担当者名	藤田	内線	2391		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
いきいきプラザの利用者数	468,307 人/年	634,314 人/年	744,395 人/年	1,058,000 人/年	1,055,000 人/年	1,129,000 人/年
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	b	感染対策を講じ、介護予防事業等を安全に実施できました。 多くの高齢者が集うさわやか体育祭は、館毎の開催に変更し、オンラインを取り入れるなど工夫しましたが、コロナの感染拡大を背景に目標人員には達しませんでした。		高齢者の安全に配慮した上で、高齢者の社会参加活動の支援や、要介護状態にならないための介護予防事業が継続できるよう、実施方法を工夫しながら取り組みます。		
令和4年度	b	貴重なコミュニティ活動の場として、介護予防をはじめ、料理や手芸、語学教室等、多様な事業を開催し、利用者満足度の向上に努めましたが、コロナの感染拡大による高齢者の利用控えが継続し、目標人員には達しませんでした。		事業内容に参加者等の意見を反映させるなどの工夫を凝らし、コミュニティ活動の場としての利用者増を図るとともに、新規の利用者が参加しやすい環境づくりを進めます。 また、高齢者の利用控えとならないような確かな周知を図ります。		
令和5年度	a	参加者等の意見を反映させながら、工夫を凝らした事業を進めるとともに、コミュニティ活動の場としての利用者増を図り、新規の利用者が参加しやすい環境づくりを進めます。		-		

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b : 予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
 c : 中間目標値に到達する可能性がない。 - : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
介護予防に資する地域の活動団体数	26団体	31団体	35団体	37団体	31団体	37団体
	達成度	当該年度を取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	介護予防リーダー養成講座受講者に対し、自主活動グループ発足について積極的かつ分かりやすく勧奨した結果、自主活動グループが複数発足し、初年度でありながら、中間目標値の達成につながりました。		これまでの登録団体や新規の登録団体が、コロナ禍においても、継続して活動できるよう、ICT等の活用を支援します。		
令和4年度	a	介護予防リーダー養成講座で、自主活動グループの見学会を再開した結果、引き続き、当初の見込みを上回る団体登録につながりました。 フォローアップ研修をオンラインとの併用で実施する等、自主活動グループへの支援も充実しました。		既存の登録団体から、後継者不足が課題との意見を伺いました。 団体の活動を継続できるよう、引き続き、ICT等の支援を行うとともに、リーダー育成研修等において、既存団体への参画を提案するなど、多角的な支援を検討します。		
令和5年度	a	ICTを活用したハイブリッドの交流や講座を継続するとともに、介護予防リーダー・サポーター養成講座において、後継者問題について情報提供していきます。				




a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・神応いきいきプラザの開設（令和5年4月）及び麻布いきいきプラザの改築（建設中／令和6年4月）は、予定通り進めました。 ・感染対策に万全を期しながら、介護予防事業等を継続できました。 ・中間目標値を上回る自主活動グループの登録数を達成できました。 ・施策の評価は、成果指標①及び②ともに、計画目標値を達成する見込みのためAとしました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点など	<ul style="list-style-type: none"> ・万全な感染対策を講じながら、いきいきプラザの運営に努め、また、さまざまな利用勧奨に取り組みましたが、感染症による高齢者の利用控えの影響は大きく、コロナ禍前の利用人員から大幅に減少しました。 ・設立をめざす団体に対し、既存グループへの見学会を再開することによって、活動のイメージを湧きやすくし、また不安の払しょくにつながり、新規登録を後押しできました。
課題と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきプラザの利用控えの要因へのアプローチや事業内容（訪問事業を含む）の充実、ICTを活用した介護予防事業の進展などが課題です。 ・高齢者の活動の場を充実させるほか、（仮称）健康長寿アプリなども効果的に活用しながら、介護予防総合センターを核とした介護予防の取組を更に充実させ、高齢者が健康で自立した生活を続けられるよう支援します。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

施策評価シート

政策No	19	政策名	高齢者のいきいきと充実した地域での生活を支援する		
施策No	2	施策名	認知症と共生する地域づくり		
目標・期待する成果	認知症予防の普及・啓発の推進により、区民の認知症への理解を深めます。認知症の人が住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らすことができるよう、地域で支えあう体制づくりを推進します。				
SDGsのゴールとの関係	   				
施策担当課	高齢者支援課		関係課		
担当者名	小野寺	内線	2408		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
認知症サポーター養成者数	23,635人	25,327人	27,441人	29,500人	28,000人	34,000人
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	認知症サポーター養成講座を46回実施し、1,692人を養成しました。 さらに、認知症サポーターのステップアップ講座やボランティア養成講座、ボランティアフォローアップ講座も実施し、認知症の理解を深めました。		在勤者による申込数の減少がみられました。コロナ禍による自粛又は団体企業が既にサポーターとなっている可能性もありますが、引き続き認知症予防の普及・啓発を推進するため、広報等での周知を強化します。		
令和4年度	a	企業への働きかけの強化や全区立中学3年生向けの講座を再開するなど、認知症サポーター養成講座を64回実施し、2,114人養成しました（うち中学生は720人）。 サポーターのフォローも計画的に行い、認知症の理解を深めました。		区内在住者の認知症サポーターを養成することが課題です。 各高齢者相談センターを中心に、町会・自治会等への積極的な働きかけを行うほか、幅広い世代に講座を受講いただけるよう、その方法や内容を工夫します。		
令和5年度	a	全区立中学校の3年生向けの講座の着実な実施と区民への積極的な働きかけを行うなど、幅広い世代に受講していただけるよう、高齢者相談センター等とも連携し、取り組んでいきます。		/		

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定より成果が挙げられず、改善が必要である。
 c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
認知症サポート店認定数	—	29件	42件	140件	140件	200件
	達成度	当該年度を取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	b	令和3年10月に開始し、29件の事業者を認定しました。 サポート店として、高齢者に対し、接客時の気遣い、気配りある対応を心掛けるきっかけとなったなどの意見が寄せられました。		サポート店として認定するためには、認知症サポーター養成講座の受講を要件としており、同講座の集合開催が叶わず、全ての要望に応答できませんでした。 新たにサポート店参加希望者向けの講座を開催するなど工夫します。		
令和4年度	b	サポート店参加希望者向けの講座を新設するほか、港区商店街連合会や港区薬剤師会等に事業の趣旨を説明するなど幅広い周知に取り組みました。食料品等販売業や病院、個人商店など、新たに13件を認定しましたが、目標値には達していません。		事業者等への周知が十分浸透していないことから、認知症サポーター養成講座の受講経験がある事業者に働きかけるほか、高齢者が訪れる機会の多い商店や薬局、金融機関など、個々具体的な店舗への協力依頼を充実していきます。		
令和5年度	a	認知症サポーター養成講座の受講者をはじめ、高齢者が訪れる機会の多い店舗等に積極的に働きかけ、地域で支え合う体制づくりを進めます。				

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 —：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーターの養成者数は、計画値を上回る見込みです。 認知症サポート店の認定数は、令和4年度末で目標値を下回るペースですが、令和5年度には、個々具体的な店舗への協力依頼を充実させ、中間目標値の達成を見込んでいます。 施策の評価は、成果指標①及び②ともに計画目標値を達成する見込みのためAとしました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	<ul style="list-style-type: none"> 感染拡大の状況下でも、認知症サポーター養成講座をオンラインで開催するなど工夫したことで、目標値を達成することができました。 認知症サポート店の認定については、周知不足という課題に加え、認定店としてのメリットやインセンティブが分かりづらいという意見も寄せられており、実績が伸び悩んでいる一因と捉えています。
課題と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーターの養成や育成及び活動の場を広げること、認知症サポート店の更なる拡大などを通じて、区民の認知症への理解を深めることが課題です。 サポーターを養成できる人の充実や区民への効果的な啓発などに積極的に取り組み、認知症の人が住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らすことができるよう、地域で支え合う体制づくりを推進します。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。




B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。

C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。

D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。

E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

施策評価シート

政策No	19	政策名	高齢者のいきいきと充実した地域での生活を支援する		
施策No	3	施策名	日々の生活を支える介護・福祉サービスの充実		
目標・期待する成果	多様化する高齢者のニーズに合わせた在宅生活を支えるため、介護サービスや高齢者福祉サービスを充実します。また、住み慣れた地域で安心して生活できるよう、多様な住まいの確保を推進します。				
SDGsのゴールとの関係	  				
施策担当課	高齢者支援課		関係課	福祉施設整備担当	
担当者名	小林	内線	2400		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
在宅支援サービス（介護保険サービスを除く）の利用者数	28,399人/年	29,119人/年	31,425人/年	31,645人/年	29,975人/年	32,775人/年
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	当初計画していたサービスの内容に加え、エアコン購入費の助成や新型コロナウイルスワクチン接種の付添支援を新たに実施するなど、高齢者の生活状況に合わせたきめ細かな支援に取り組み、熱中症や感染症対策の充実を図りました。		高齢者の在宅生活を支援するため、高齢者を取り巻く社会状況の変化や多様化するニーズを迅速かつ的確に捉え、最適なサービスの内容となるよう不断の見直しを継続します。		
令和4年度	a	高齢者補聴器購入費助成事業を新たに開始するなど、高齢者の生活状況に合わせたきめ細かな支援に取り組み、認知症の危険因子の一つといわれる難聴の早期発見と適正な補聴器の使用を後押ししています。		住宅に困窮している高齢者への支援策である高齢者民間賃貸住宅入居支援事業は、成約率が低いなどの課題があることから、より効果を発揮できる事業とするため、実態に即した制度となるよう改善に向けて検討します。		
令和5年度	a	高齢者民間賃貸住宅入居支援事業について、債務保証会社の初回保証委託料助成の対象拡大や自己の責めに寄らない立ち退き時の入居費用の一部助成の要件緩和など、制度の改善に取り組み、在宅高齢者の支援を充実します。		/		

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b : 予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c : 中間目標値に到達する可能性がない。 - : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
	達成度	当該年度の取組と成果			課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)	
令和3年度						
令和4年度						
令和5年度						




a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅療養者配食サービスや在宅要介護者緊急一時支援事業などの新規事業を積極的に実施し、コロナ禍における在宅高齢者の安全・安心につなげました。補聴器購入費助成事業を開始するなど、高齢者のニーズを捉えた事業の的確な実施により、実績が目標値を上回る見込みです。 ・ 施策の評価は、成果指標が計画目標値を達成する見込みのためAとしました。
達成状況の要因 ・ 取組の有効性が高かった点 ・ 取組の有効性が低かった点 ・ 外部要因の影響を受けた点 など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染者へ1日3食の弁当を無料で配達し、安否確認も兼ねる自宅療養者配食サービスでは、利用者から感謝の声が多く寄せられました。 ・ コロナ禍により高齢者が外出を控えたことから、通院支援や無料入浴券などの利用実績が一時的に減少しましたが、いずれも増加傾向にあります。
課題と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅に困窮している高齢者への支援策である高齢者民間賃貸住宅入居支援事業は、成約率が低いなどの課題があるほか、介護サービスや高齢者福祉サービスの内容については、在宅高齢者の生活実態を踏まえ、引き続き、最適な内容となるよう検討が必要です。 ・ さまざまなサービスをきめ細かく提供することで、多様化する高齢者のニーズに合わせた在宅生活を支えていきます。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

施策評価シート

政策No	19	政策名	高齢者のいきいきと充実した地域での生活を支援する		
施策No	4	施策名	誰もが安心して暮らせる地域づくり		
目標・期待する成果	高齢者の地域での見守りや災害時等の安全確保などにおいて、地域の様々な関係機関や活動主体が連携し、支えあう環境整備を進めます。高齢者を支えるための担い手の育成や地域資源の開発、活動主体や民間事業者等との連携・協力により、生活支援サービスの体制整備を推進します。				
SDGsのゴールとの関係	  				
施策担当課	高齢者支援課		関係課		
担当者名	小林	内線	2400		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
ふれあい相談員による訪問及び電話相談の対応世帯数	5,323件/年	5,967件/年	6,092件/年	6,196件/年	5,171件/年	5,456件/年
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	コロナ禍での訪問活動となったため、相談員の感染予防対策や訪問日時等の事前告知など、実施方法を工夫しました。支援が必要な高齢者へは電話相談を活用し、通常より頻度を増やして見守りや相談を行いました。		コロナ禍で高齢者が外出を控え孤立するケースもあり、ふれあい相談員による相談活動は重要度を増しています。感染予防対策を着実にしながら、支援が必要な高齢者への相談対応や見守り活動を推進します。		
令和4年度	a	感染予防対策を講じながら積極的な訪問活動を再開し、訪問延べ件数は、昨年度の約2倍となりました。訪問を基本としながら、電話相談も活用し、多くの高齢者の状況を把握し、必要な支援に繋ぐことが出来ました。		高齢者人口の増加に伴い、訪問対象世帯数も増加傾向にあります。民生委員・児童委員や町会、自治会等と連携し、積極的に救急通報システムの利用を勧奨するなど、ひとり暮らし高齢者等が安心して在宅生活を継続できるよう支援します。		
令和5年度	a	高齢者人口の増加が見込まれることから、ふれあい相談員の訪問の際に積極的に救急通報システムや配食サービスなど見守り機能のあるサービスの利用を促進し、高齢者の見守りや生活の支援に取り組みます。		-		

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b : 予定より成果が挙がらず、改善が必要である。
 c : 中間目標値に到達する可能性がない。 - : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
生活支援コーディネーターが情報収集した地域活動団体等の数	-	541団体/年	559団体/年	569団体/年	466団体/年	498団体/年
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	令和4年3月に、高齢者が地域活動等の情報を簡単に検索できる「高齢者地域活動情報サイト」を開設しました。紙媒体に比べ、規模の小さい活動情報も丁寧に周知できることから、目標値より多くの情報を収集し掲載することができました。		高齢者が活動又は参加できる既存の情報は概ね掲載できています。関係機関とも連携しながら、新たに創設された取組や活動情報を収集し、サイトを通じて高齢者へ公開することで、高齢者の地域活動を支援します。		
令和4年度	a	地域活動やイベント等の情報をきめ細かく掲載するなど、サイトの充実に努めました。ひと月の閲覧件数が前年の約1.4倍となり、サイトを閲覧した高齢者の事業の参加につながるなど、高齢者の地域活動の一助となっています。		多くの高齢者の社会参加や地域活動を支援するため、サイトの認知度を更に向上させる必要があります。高齢者への周知に加え、高齢者の支援関係機関へも働きかけ、より多くの高齢者に活用されるよう取り組みます。		
令和5年度	a	サイトに掲載する情報の充実に努めるとともに、サイトの認知度を向上させるための周知に力を入れ、より多くの高齢者に活用されるよう取り組みます。				

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ひとり暮らし高齢者等に対し、アウトリーチの手法でふれあい相談員が訪問することで、見守りや必要な支援につなげることができました。 「高齢者地域活動情報サイト」を開設し、目標値より多くの情報を掲載し、閲覧数の増加や高齢者の地域活動への参加につながっています。 施策の評価は、成果指標①及び②ともに計画目標値を達成する見込みのためAとしました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため、ふれあい相談員は、従来の訪問に加え、手紙や電話を活用するなど、高齢者の状況に応じた見守り等を継続し、必要な支援につなげることができました。 地域活動やボランティア情報を容易に検索できるサイトを開設し、紙媒体に比べ多くの情報を最新の状態で提供することができました。
課題と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 現状の見守り体制を維持するため、訪問対象世帯の増加にも対応できるようふれあい相談員の充実等について検討します。また、「地域活動情報サイト」の更なる認知度の向上にも取り組みます。 地域の様々な関係機関や活動主体と連携し、ひとり暮らし高齢者等を地域で支え合う環境整備を進めます。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。